



蒲生氏郷と慶長遣欧使節をめぐる人文地理学的研究 —徳川家康、伊達政宗そして支倉常長に与えた影響 から—

川西, 孝男

(Citation)

2023年 人文地理学会大会 研究発表要旨:38-39

(Issue Date)

2023-11-25

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100485855>



蒲生氏郷と慶長遣欧使節をめぐる人文地理学的研究 —徳川家康、伊達政宗そして支倉常長に与えた影響から—

Gamou Ujisato and Keicho Mission to Europe on the Human Geographic Research—From his great Influence to Tokugawa Ieyasu, Date Masamune, and Hasekura Tsunenaga—

川西 孝男 (京都大学人文科学研究所・王立地理学会)

Dr. KAWANISHI Takao F.R.G.S (Kyoto University, Institute for Research in Humanities, Joint Research Fellow, Fellow of Royal Geographical Society, United Kingdom)

キーワード：蒲生氏郷、徳川家康、伊達政宗、支倉常長、慶長遣欧使節

Keywords: Gamou Ujisato, Tokugawa Ieyasu, Date Masamune, Hasekura Tsunenaga, Keicho Mission

I はじめに—キリシタン大名蒲生氏郷と「遣欧使節」—

蒲生氏郷に関する研究が近年注目されたのは、明治政府によるキリシタン解禁と欧米列強との交易開始の時代であり、日本の近代化と国際化の脈絡の中で取り上げられた。特に第二次世界大戦期の大日本帝国外務省の発刊資料側と東京帝国大学史料編纂所の研究者側との「蒲生氏郷による遣欧使節派遣の有無」をめぐる学術論争が知られる。

本研究は、この論争から得られた知見すなわち、氏郷がローマなどに派遣した人物は慶長遣欧使節の支倉常長を類推させるという指摘を土台に人文地理学的視点から新たな蒲生氏郷像に論及する。この使節には伊達政宗は勿論、徳川家康そして幕府も関わっており、新旧キリスト教対立下における江戸開府期の日本における通商外交政策の挑戦的試みであった。この三者すなわち家康、政宗、常長を実質的に先導・教導した氏郷、そして彼が慶長遣欧使節に与えた影響を傍証したい。

II 蒲生氏郷と家康、そして遣欧使節

本能寺の変後、伊勢松阪を領有した氏郷は伊勢湾からの国際的な海上交易を目指しており、鉄甲船で知られる九鬼義隆を与力に付ける等、商船から海軍に至る見識を備えていた。一方、本能寺の変では伊賀越えの家康一行の退路を確保するなど、後に秀吉と対峙する家康に手を差し伸べており、これが後年の奥州仕置における氏郷と家康の連携、そして氏郷逝去後の蒲生家と家康そして徳川家との親交に繋がっている。

また当時、氏郷はキリスト教に入信したとされるが、天正遣欧使節の情報をイエズス会から得るなど、大航海時代を主導する欧州との交易そして遣欧への氏郷の関心は明らかである。この氏郷にイエズス会はレオン（ライオン、麒麟）の洗礼名を与え「万事に寛大であり、戦場において類まれなる強運をもつ」氏郷に信長亡き後の日本の統一そして未来を担う人物、すなわち天下人への期待を込めていた。

III 蒲生氏郷と米沢—政宗・支倉常長の地へ

この後、氏郷は天下仕置軍の先鋒・主力として黒川城（現会津若松城）に入城するが、北上のため米沢への前線を整備

した（米沢街道）。米沢城は伊達政宗の居城そして生誕地であるほか、伊勢発祥と言われる支倉家も当城で政宗の父・輝宗に仕え、米沢近郊の常長生誕地となった立石を領有し、街道周辺を守護していた。蒲生氏郷の存在は後の米沢入城を含め政宗はおろか常長にも十分に意識されたと言え、この三者そして家康は奥州仕置で行動を密にすることになる。

IV 大崎葛西一揆鎮圧と蒲生氏郷

通説では政宗がこの大規模一揆を裏で扇動し、仕置軍撃退を画策したという。常長も政宗から一揆側との交渉役を任された。しかし氏郷はこれらの動向を察知し、上方に政宗謀反の嫌疑を告げ、政宗に一揆掃討への圧力をかけるなどの采配を見せ、これを鎮圧させた。しかし私は、この氏郷の政宗との駆け引きを単なる対立とは見ていない。氏郷は、この隻眼の暴れん坊・政宗に対しライオンが愛児に与える試練のように自らの後継者を試していたと考える。さらに政宗に謀反の弁明の口実で上洛させ、天下の気風・見識を身に付けさせる荒療治を施し、ここに性根を替え、心眼を得た「独眼竜」が誕生し、後の将軍家康を支える「天下の副将軍」政宗もまた氏郷によって導かれたと言える。一方、常長は一揆の仲介役あるいは内通者として戦場を駆け抜ける中、晴天の霹靂とも言い得る伊達家臣の氏郷への寝返りに、天下軍を主導し、秀吉や家康そして主君政宗さえも従わせる氏郷の器量や戦術の格段の違いを思い知らされている。さらに当時、岩手県北部では九戸政実の乱が勃発したが、常長は、先の嫌疑を晴らすべく上洛の途に着く政宗の命で、九戸周辺での情報収集や戦闘に加わっており、常長が九戸城に軍を進めた氏郷側あるいは本人と直に接触した可能性もある。

V 氏郷の死去と政宗・常長

天下布武そして統一の役目を終えた氏郷が逝去した後、政宗そして常長は大陸（朝鮮）出兵に参陣した。しかし、その失敗の後、豊臣側に対して家康が立ち、関ヶ原合戦の勝利によって蒲生・伊達両家は五十万石以上の旧領を取り戻した。さらに政宗は関ヶ原の恩賞として近江蒲生家の旧領地周辺

The Human Geographical Society of Japan 2023 Annual Conference Abstract, KAWANISHI Takao

に五千石を与えられた。これにより伊達家は畿内に領地を得たが、当時は蒲生家も秀行の下に健在であり、徳川家と縁戚となった蒲生家の意向もあったと言え、氏郷以来の政宗そして伊達家との縁も見られる。これらは氏郷が自らの亡き後の蒲生家の行く末を、家康そして「麒麟」自らが育て上げた独眼竜に委ねていた証左でもある。

VI 氏郷の理想「世界との交易」へ

開府直後の家康にとって国内統制が愁眉の課題となっており、キリシタン禁令は継続された。一方で新教側だけでなく、旧教勢力との交易も軍事技術や資源を得る上でも重要であり、幕府は米州そして欧州に至る東回り交易路、すなわちカトリック勢力圏ノビスパンでの銀採掘・輸入などを検討していた。政宗もスペイン人宣教師ソテロを重用し（使節正使）、彼のスペイン側との交易の主張に幕府の暗黙の了解を取り付け、遣欧船（遠洋航海船）の建造に着手した。政宗は支倉常長を使節団の副使に任命したが、常長こそは、上述のようにキリスト教を公認し、世界交易を通して日本を繁栄させるという氏郷の理想と遺志に通じる無二の存在であった。

VII 遣欧の成功と通商への壁

かくして常長ら慶長遣欧使節は氏郷らも企図あるいは実施したとされる欧州入りを果たし、スペインとの通商交渉こそ失敗に終わったが、ローマ教皇に謁見し、日本使節の表敬を成功させた。この通商失敗には様々な説があるが、大阪冬・夏の陣などで政情不安が高まったこと、日本の遠洋航海船の造船能力への懸念、そして貿易相手国の宗教を迫害する交渉姿勢を危惧したことも否めない。一方、スペイン側も無敵艦隊が敗れるなど日の沈まぬ国が斜陽期に入っており、新たな遠距離交易のリスクを避けた可能性もある。

VIII 支倉常長の帰国と現実

このような中、常長はスペイン国王へ通商再考を乞い、ソテロの故郷セビリアで回答を待った。そして失意の中帰日した。時代は、氏郷や政宗の望んだ国際交易の躍動の時代とは裏腹の、キリシタンへの迫害強化と徹底した管理貿易による鎖国体制に入ろうとしていた。政宗に再会し、遣欧使節の顛末を報告した後、常長も天寿を全うした。

そして大坂の陣の後、政宗は近江蒲生の周辺地に再び五千石の加増を許された。徳川家もこの蒲生領を天領とし、蒲生家累代の氏神である馬見岡綿向神社に寄進している。このように旧近江蒲生領一帯に伊達そして將軍家が入ったことは両家と蒲生家との深い繋がりを示すものである。

IX 蒲生家と伊達、徳川家 その後と逸話

時代はキリシタン弾圧の強化そして島原の乱に向かいつつある中、蒲生家は内紛から四国・松山に転封されたが、奇しくも隣の宇和島には伊達家の飛び地がある。このような蒲生

家をめぐる伊達、徳川家についてエピソードがある。江戸時代末期、近江の伊達領では氾濫が絶えず、周辺農民が伊達陣所に窮状を伝えると、陣所は人出を集め堤防を建造した。万石堤と言われ、第二次大戦中の軍の撤去命令で壊されるまで市民を洪水から守ったという。今一つは、前述の松山転封の際、蒲生家は徳川家から近江蒲生の旧領を与えられた。これによって蒲生家家臣や近江日野出身者は「氏郷」の名の通り、彼と共に故郷を後にして約三十年ぶりの帰郷となった。いずれも三家累代の良好な関係無くして有難い逸話である。

X 結語

このように氏郷の家康・政宗・常長への影響を考察すると前述の論争にも一つの可能性が見えてくる。それはキリシタン大名蒲生氏郷には遣欧すなわちヴァチカンへの表敬そして国際交易への意志があり、それは論争の帰結となった常長によって氏郷の遺志が遂行されたというものである。さらに氏郷の理想・精神は彼の育てた近江・伊勢商人らによって継承され、全国を縦横に往来し、さらに自らの財力で造船し大海原に雄飛していった姿に象徴されよう。

またキリスト没後約300年後にローマで公認されて欧州がキリスト教を中心とした新時代を迎えたように、慶長遣欧使節の終了とともに実質的に始まった禁教と鎖国の三世紀を経て、その彼らの精神が明治政府の遣欧米使節団によって復活し、終戦と共に日本の国際化そして自由交易の時代が訪れたことは記憶に新しい。



図1 支倉常長像 Spain, Sevilla, Coria del Río 筆者撮影

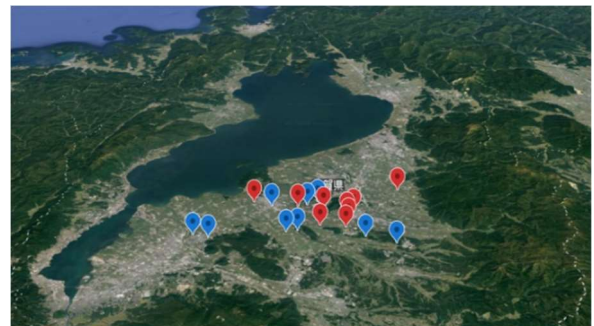


図2 近江伊達領 (赤点：1601年、青点：1634年加増、ベースマップ：Google Earth)

(※) この研究発表の参考史料、現地研究交流・踏査地などはリポジトリ上で公開する。

<参考図絵・資料・文献等 Reference>

1 主要図絵Main Picture, Map and Conceptual Diagram

蒲生氏郷

- ・生誕弘治2年 (1556年)
- ・死没文禄4年 (1595年)
- ・天正18年 (1590年) の奥州仕置において伊勢より陸奥国会津に移封され42万石 (のちの検地・加増により91万石)
- ・会津百万石のキリシタン大名
- ・→「天下の器量人」「未完の天下人」(東北犬：高橋)



会津西 (西) 光寺・紙本着色蒲生氏郷像
http://is2.sss.fukushima-u.ac.jp/fks-db/txt/10059.101.nishiaizu/html/00000-04.html

図1 蒲生氏郷

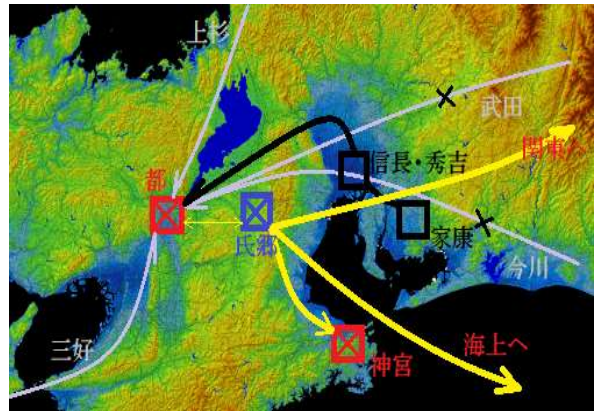


図5 戦国時代における蒲生氏郷の動き 筆者作成

(国土地理院デジタル地形図を元に著者が編集。https://www.gsi.go.jp/kankyochiri/Laser_map.html)

家康、政宗、支倉常長



狩野探幽画、大阪城蔵



土佐光貞筆、東福寺蔵



仙台市博物館蔵、国宝・ユネスコ記憶遺産、クロード・デリユエ作

図2 家康、政宗そして支倉常長

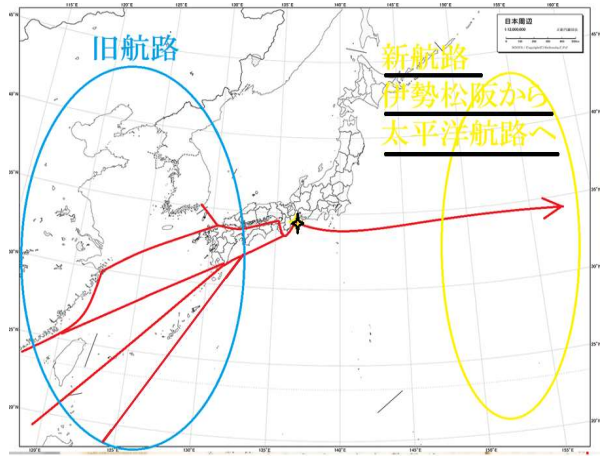


図6 蒲生氏郷の伊勢松阪港の新・旧航路の視点 (イメージ) 筆者作成

慶長遣欧使節の新構図 (定説そして新説=川西説)

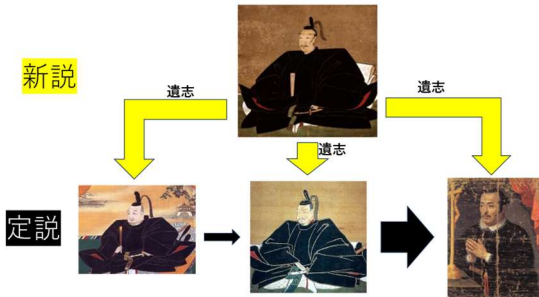


図3 慶長遣欧使節の新構図 (定説そして新説=川西説)

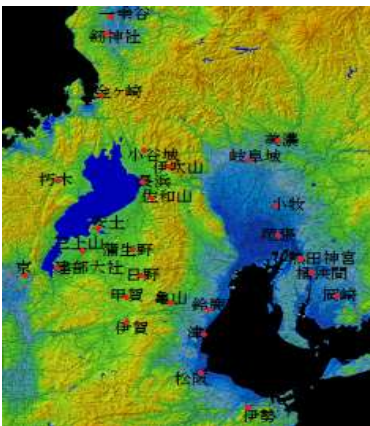


図4 本論主要関係地 (近江・伊勢) 筆者作成

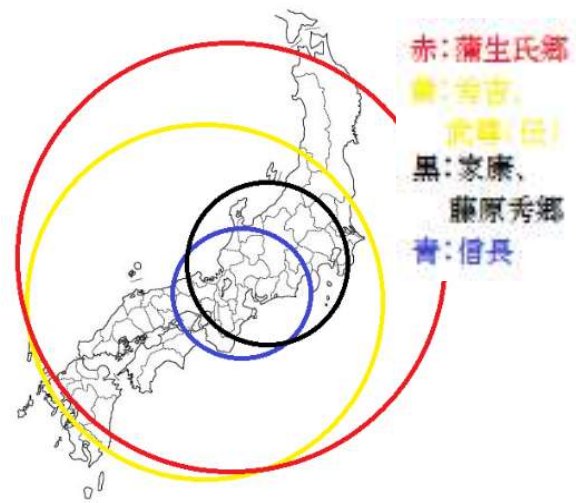


図7 日本統一に関わった英傑の進軍範囲 筆者作成



図8 ヴァチカン・サンピエトロ大聖堂 (筆者撮影)



図11 宮城県石巻市・月浦港 (筆者撮影)



図9 スペイン・セビリア大聖堂 (筆者撮影)



図12 近江伊達氏菩提寺・徳昌寺 (東近江市、筆者撮影)

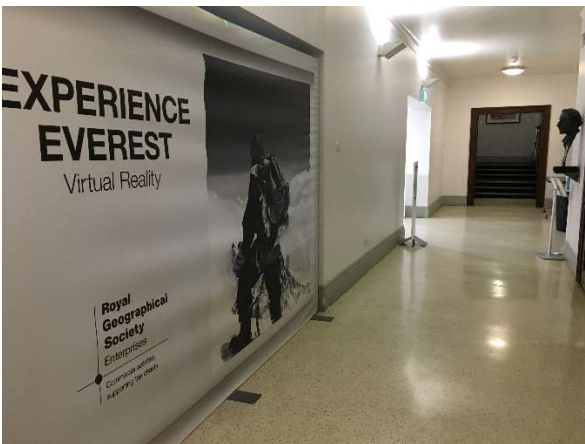


図10 英国・王立地理学会本部内エベレスト登頂展 (2023年1月、筆者表敬、撮影)



図13 近江伊達陣屋跡 (東近江市、同)

2 主要史料 Main Reference in Old Documents

外務省記録局 編『外交志稿』巻之五(外務省、1884)
「氏郷記」『史籍集覧 第14冊』、1902
「蒲生氏郷記」『史籍集覧 第14冊』、1902
塙保己一編「蒲生氏郷記」、『群書類従』、第拾四輯、1893
「蒲生家記」、国文学研究史料館蔵
「蒲生軍記」、国史研究会、1917
「蒲生系図」、続群書類従、蒲生系図二篇
「信長公記」『史籍集覧 第19冊』、1902
「言経卿記」『大日本古記録』、1992
「勢州軍記」、写本、1679、東京大学史料編纂所蔵
伊達治家記録、伊達家古文書
支倉家文書
Manoel de Lyra, Cartas que os padres e irmãos da
Companhia de Iesus escreverão dos Reynos de Iapão ,
1598
Luís Fróis, José Wicki(ed.), Historia de Japam: v.
1. 1549-1564v. 2. 1565-1578v. 3. 1578-1582v. 4. 1583-
1587v. 5. 1588-1593 , in Biblioteca Nacional de Lisboa,
1976-1984
Fróis, Tratado em que se contêm muito sucinta e
abreviadamente Algumas contradições e diferenças dos
costumes entre a Gente da Europa e Esta Província do
Japão, in Biblioteca da Ajuda, Portugal, 1585
Bernardino de Ávila Girón, Noemí Martín Santo, Relación
del reino del Nipón a que llaman corruptamente Japón,
in Real Biblioteca del Monasterio de San Lorenzo del
Escorial in Spain, 17th c.

3 主要参考文献 Main Reference of Books

渡辺修二郎「蒲生氏郷羅馬遣使説の出處」『異説日本史』第五
巻、雄山閣、1931
辻善之助「蒲生氏の羅馬遣使について」、『海外交通史話』、
p. 450-464、内外書籍、1930
五野井隆史「支倉常長」、吉川弘文館、2003
高橋由貴彦「ローマへの遠い旅—慶長使節 支倉常長の足跡」、
講談社、1981
紫桃正隆、「仙台領の戦国誌—葛西大崎一揆を中心とした—」、
宝文堂、1967
大泉光一「支倉六右衛門常長—慶長遣欧使節を巡る学際的研
究」、文眞堂、1998
樫山巖「支倉常長の総て」、金港堂出版部、1993
高橋富雄編「蒲生氏郷のすべて」、新人物往来社、1988
瀬川欣一「蒲生家盛衰録」上、中、下巻、石岡教文堂、1982

滋賀縣蒲生郡役所「近江蒲生郡志 巻三」、1922
蒲生町史編纂委員会編「蒲生町史 第2巻 近世・近現代」、1999
安土考古学博物館編「蒲生氏郷」、2005
西園寺源透「蒲生忠知公傳」、1933
東京大学史料編纂所「大日本史料第12編之12」
笠谷和比古「徳川家康」、ミネルヴァ書房、2017
北島正元「徳川家康のすべて」、新人物往来社、1983
アビラ・ヒロシ、ルイス・フロイス著、佐久間正、岡田訳「日
本王国記・日欧文化比較」、大航海時代叢書11、1965
フロイス著、松田、川崎訳「フロイス日本史1~8」、1977
高瀬弘一郎訳「モンズーン文書と日本—十七世紀ポルトガル
公文書集」、2006
村上直次郎訳、「イエズス会士日本通信上」、新異国叢書1、
1969
同「イエズス会士日本通信下」、新異国叢書2、1969
同「イエズス会日本年報上」、新異国叢書3、1969
同「イエズス会日本年報下」、新異国叢書4、1969
ジョアン・ロドリゲス著「日本教会史上」、大航海時代叢書
9、1967
同「日本教会史下」、大航海時代叢書10、1970
高瀬弘一郎訳「イエズス会と日本1」、大航海時代叢書第II期
6、1981
岸野久訳「イエズス会と日本2」、大航海時代叢書第II期7、
1988
川島元次郎「朱印船貿易史」、内外出版、1921
野村尚吾「豪商 角倉了以を中心とする戦国大商人の誕生」、
毎日新聞社、1968
度会町史編さん委員会「度会町史」、ぎょうせい、1981
宇田川武久「戦国水軍の興亡」、平凡社、2002
山内譲「豊臣水軍興亡史」、吉川弘文館、2016
振角卓哉「蒲生氏郷伝説」、サンライズ出版、2021
東京大学史料編纂所「大日本史料第12編之12」
吉田小五郎「キリシタン大名」、至文堂、1954
小林清治「伊達政宗」、吉川弘文館、1985
高橋富雄「伊達政宗のすべて」、新人物往来社、1984
大泉光一「キリシタン将軍伊達政宗」、柏書房、2013
「図録 伊達政宗と仙台の名宝」、名古屋博物館、1990
「図録 宇和島伊達家の名宝」、仙台市博物館、2015
人物往来社編「豊臣秀長のすべて」、新人物往来社、1996
安野眞幸「教会領長崎 イエズス会と日本」、講談社、2014
山崎信二「長崎キリシタン史」、雄山閣、2015
ヴォルピ著、原田訳「巡察師ヴァリニャーノと日本」、一藝社、
2008
ヴァリニャーノ著、松田訳「日本巡察記」、平凡社、1973

The Human Geographical Society of Japan 2023
Annual Conference Abstract, KAWANISHI Takao

- ヴァリニャーノ著、高橋訳「東インド巡察記」、平凡社、2005
- ジェスティス著、大間知訳「中世騎士」、原書房、2021
- 田中彰「岩倉使節団『米欧回覧実記』」、岩波書店、1994
- 久米・田中編「特命全権大使米欧回覧実記」、岩波書店、1985
- 伊川健二「世界史のなかの天正遣欧使節」、吉川弘文館、2017
- 櫻井、菊池編「近世日越交流史：日本町・陶磁器」、柏書房、2002
- 宇神幸男「宇和島藩」、現代書館、2011
- 小林清治「戦国大名伊達氏の領国支配」、岩田書院、2017
- 小林清治「戦国期奥羽の地域と大名・郡主」、岩田書院、2018
- 松田毅一「伊達政宗の遣欧使節」、新人物往来社、1987
- 佐藤憲一「伊達政宗の手紙」、新潮選書、1995
- 松田毅一「慶長遣欧使節：徳川家康と南蛮人」、朝文社、2002
- 佐々木徹「慶長遣欧使節：伊達政宗が夢見た国際外交」、吉川弘文館、2021
- 小川仁「シピオーネ・アマーティ研究：慶長遣欧使節とバロック期西欧の日本像」、臨川書店、2019
- 田中彰「岩倉使節団の歴史的研究」、岩波書店、2002
- 芳賀徹「岩倉使節団の比較文化史的研究」、思文閣出版、2003
- ロレンソ・ペレス著、野間訳「ベアト・ルイス・ソテーロ伝：慶長遣欧使節のいきさつ」、東海大学出版会、1968
- 鈴木かほる「徳川家康のスペイン外交：向井将監と三浦按針」、新人物往来社、2010
- 小川雄「徳川権力と海上軍事」、岩田書院、2016
- 高瀬弘一郎「キリシタンの世紀：ザビエル渡日から鎖国まで」、岩波書店、1993
- 毎日新聞社編「鎖国と海商」、毎日新聞社、1979
- 後藤隆之「伊勢商人の世界：経済と文化」、黎明書房、2021
- 上村雅洋「近江日野商人の経営史：近江から関東へ」、清文堂出版、2014
- サンライズ出版編「近江商人と北前船：北の幸を商品化した近江商人たち」、サンライズ出版、2001
- 菅野和太郎「近江商人の研究」、有斐閣、1941
- 高瀬弘一郎「キリシタン時代対外関係の研究」、八木書店、2017
- 高瀬弘一郎「キリシタン時代のコレジオ」、八木書店、2017
- 桑原直己「キリシタン時代とイエズス会教育：アレクサンドロ・ヴァリニャーノの旅路」、知泉書館、2017
- 坂東省次、椎名浩「日本とスペイン文化交流の歴史：南蛮・キリシタン時代から現代まで」、原書房、2015
- 岡田章雄「キリシタン大名」、吉川弘文館、2015
- 松田毅一「ヴァリニャーノとキリシタン宗門」、朝文社、2008
- アーミン・H. エヴェリン・M・クレラ「会津のキリシタン：会津キリシタンの歴史」、会津農村伝道センター、2006
- 服部早希『伊勢統治時代の蒲生氏郷をめぐる諸問題-新出の発給文書を手掛かりに-』『三重県総合博物館研究紀要』、2021
- 滋賀県八日市市教育委員会「徳昌寺遺跡発掘調査報告書」、2002年
- Margarita Torres Sevilla, Kings of the Grail: Tracing the Historic Journey of the Holy Grail from Jerusalem to Spain, 2015
- Martin Santo, Noemi, "Cosas de tierras extrañas": textos y contextos de la Relación del reyno del Nippon de Bernardino de Ávila, Boston University, 2016, OpenBU <https://core.ac.uk/download/pdf/147828429.pdf>
- 川西孝男「聖杯騎士伝説の研究」、関西学院大学出版会、2016
- 川西孝男「織田信長と日本武尊伝説：戦国動乱期における信長と武尊再来としての蒲生氏郷をめぐる人文地理学的考察」、人文地理学会2022年度大会 研究発表要旨 https://kwansei.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=30560&item_no=1&page_id=30&block_id=114
- 川西孝男「日本武尊伝説と蒲生氏郷・相応院「冬姫」：氏祖・藤原秀郷からの新視座、将軍・家康の先導的「大英傑」そして天下泰平の完成確認者として／編纂史料及び先行研究検証から」、国際日本文化研究センター（日文化研）主催共同研究発表会、発表要旨・配付資料：2021年10月9日、於：日文化研本館 https://kwansei.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=29915&item_no=1&page_id=30&block_id=85
- 川西孝男「蒲生氏郷と聖杯騎士伝説：天下泰平へのヨーロッパ騎士道精神そしてキリスト教文化の影響から」、国際日本文化研究センター（日文化研）共同研究発表会、発表要旨・配付資料：2022年（令和4年）7月9日、於：日文化研本館第五共同研究室（京都市西京区） https://kwansei.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=30411&item_no=1&page_id=30&block_id=85
- 川西孝男「Avila Girón (-1619) による「Relación del Reino de Nippon a que llaman corruptamente Jappon」写本第2版を中心とした日本における「聖杯」の研究：「天文」、天正、慶長そして「令和」における遣欧者の視点、あるいは史料編纂学、グローバル歴史地理学、キリスト教神秘主義的考察」、東京大学史料編纂所特定共同研究発表会、発表要旨・配付資料：2020年9月12日

The Human Geographical Society of Japan 2023
Annual Conference Abstract, KAWANISHI Takao

https://kwansei.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=29095&item_no=1&page_id=30&block_id=85

川西孝男「ヨーロッパ大航海時代と「聖杯騎士伝説」：ポルトガル「エスタード・ダ・インディア」そして英蘭東インド会社の世界進出における人文地理学的考察」、人文地理学会2019年大会 研究発表要旨

https://kwansei.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=28349&item_no=1&page_id=30&block_id=85

Takao Kawanishi, The Study of the Symbol of Holy Grail from Coimbra in Portugal to Japan -from the root of the symbolic Flag at the War of Shimabara in 17th Century-, Presentation of International Conference: SOCIETY FOR EMBLEM STUDIES (SES), Road to SES Conference Coimbra - online sessions for 12th INTERNATIONAL CONFERENCE, at Interuniversity Research Centre for Camonian Studies, Coimbra University (Universidade de Coimbra) in Portugal, 27 May, 2021, 18 h Lisbon (GMT+1:00), <https://kwansei.repo.nii.ac.jp/records/29775>

4 本発表に関する主要研究協力機関・現地踏査地等Thanks to Institutes & Main Fieldworks

(イタリア、ヴァチカン市国)

ヴァチカン図書館古文書室・機密文書館

アンジェリカ図書館

ローマ・イエズス会文書館

サンピエトロ寺院

ヴァチカン

ローマ

フィレンツェ国立中央図書館及び古文書室

ジェノバ

ミラノ

チヴィタヴェッキア

(スペイン)

エル・エスコリアル、サンロレンソ王室図書館、スペイン国立中央図書館ほか

バルセロナ

モンセラート

マドリード

アルカラ・デ・エナーレス

アビラ

セビリヤ

コリア・デル・リオ

バレンシア

(オランダ)

ハーグ国立文書館、オランダ王立図書館

ライデン大学図書館

アムステルダム、ロッテルダム

ユトレヒト

(ドイツ)

オーバーフランケン歴史協会 (パイロイト)

ドイツ連邦公文書館パイロイト支部

エレミタージュ、ザンクト・ゲオルゲン

(ポルトガル)

国立トーレ・ド・トンボ文書館、ポルトガル国立図書館ほか

コインブラ大学

リスボン、トマール、エヴォラ

(フランス)

フランス国立図書館フランソワ・ミッテラン館

フランス国立図書館リシュリュール館

パリ

サントロペ、サンラフェルほか

(英国)

大英図書館、博物館

王立地理学会本部

テンプル教会、ミドル・テンプル法曹院

ロンドン

(日本)

東京大学史料編纂所

京都大学人文科学研究所

国際日本文化研究センター

関西学院大学・図書館

国立国会図書館

滋賀県蒲生郡日野町、安土町 (現近江八幡市)

安土城考古博物館

滋賀県近江八幡市、野洲市、東近江市

八幡山城址 (近江八幡市)

仙台藩陣屋跡 (東近江市)

徳昌寺 (東近江市)

竹田神社

馬見岡綿向神社

日野城址、観音寺城址、安土城址、安土セミナリオ跡

三重県松阪市、津市、伊勢市、渡会郡、志摩市、鳥羽市

伊勢神宮

松阪城址、大河内城址

田丸城址 (度会郡)

鳥羽城址

三重県総合博物館

松阪市立歴史民俗資料館

岡崎城（愛知県）

福島県会津若松市、興徳寺、弘真院、高巖寺

会津若松城（鶴ヶ城）

福島県福島市、伊達市

福島県立博物館

福島城址

高子岡城址

梁川城城址

山形県米沢城址、米沢街道

岩手県立博物館

盛岡城址

九戸城址（福岡城址）

青森県三戸郡新郷村

三戸城址・歴史民俗資料館

宮城県仙台城址、瑞鳳殿

多賀城址

光明寺（仙台市）

名生城址・名生館官衙遺跡（大崎市）

岩出山城址

月浦（石巻市）

東北大学付属図書館

栃木県唐沢山神社

忍城（埼玉県行田市）

江戸伊達屋敷跡（東京都千代田区）

向井忠勝江戸下屋敷跡（中央区）

小田原城

鹿児島県鹿児島市、始良市、蒲生城跡、蒲生八幡神社

長崎県長崎市、島原市

熊本県熊本市、天草市

京都御所、大徳寺、総見院、黄梅院、百万遍知恩寺、瑞林院

本能寺、本能寺跡

伏見城址、海宝寺（京都伊達屋敷跡）

皇居（旧江戸城）

兵庫県川西市、多太神社、多田神社

有岡城址（伊丹市）

塚口城址（尼崎市）

尼崎市立歴史博物館、尼崎城址公園

大阪府堺市

大阪城、大阪歴史博物館

※現地踏査は2019年以前、若しくは2021年10月以降に行ったものである。

5 謝辞Special Thanks

本発表は東京大学史料編纂所における、文部科学省所管特定共同研究「モンスーン文書・イエズス会日本書翰・VOC文書・EIC文書の分野横断的研究」（モンスーン・プロジェクト：松方冬子班）及び、国際日本文化研究センターでの同共同研究「貴族とは何か、武士とは何か」（倉本一宏班）の研究成果を活用したものである。

また、本研究発表は、国際日本文化研究センター（日文研）における令和4年度（2022年度）海外共同研究支援（研究渡航国：イタリア、ドイツ、オランダ、フランス、スペイン、ポルトガル、イギリス）を受けて現地研究機関交流、史料閲覧、現地踏査を実施した研究成果を活用している。